令和7年度 河川砂防技術研究開発公募 地域課題分野(河川生態) 研究開発テーマ
 <一般研究:中間評価結果>

テーマおよび概要		研究代表者名	評価	審議結果
テーマ	大規模攪乱後の生態系回復プロセスとそれを担保する河川構造:2つの時間軸(平成29年7月九州北部豪雨と1720年6月享保水害)に着目したアプローチ	九州大学 鬼倉 徳雄	a	令和7年度 一般研究(継続) として採択する。
概要	短期だけでなく長期的な経過時間を含めた生態系回復プロセスを、各種の生態的特性を加味しながら解明すること、また、激甚化した災害レベルでも生態系回復のソースとなりうる空間構造とその複雑性を流程ごとに特定する。			
テーマ	河川における生息地連続性の重要性 - 河川生態系への影響評価および保全方策	長野大学 箱山 洋	a	令和7年度 一般研究(継続) として採択する。
概要	河川生態系における攪乱や河川工作物の存在が、生息地の連続性、さらには個体群・群集の健全性・持続性に与える影響を明らかにする。また、生物の移動・分散に配慮し災害対策モニタリングの機能を持つInternet of Things(IoT)型の魚道・生物避難場所・小水力発電に関する技術開発や、保全と治水のトレードオフ(一得一失)評価手法の開発を行い、合理的な河川管理行政に資する。			
テーマ	気候変動及び流域治水シナリオに基づく生物多様性の評価とハビタット管理手法の提案	名古屋工業大学 萱場 祐一	a	令和7年度 一般研究(継続) として採択する。
概要	流域治水は、1)流域(堤内地)での貯留空間の増大に伴う陸水環境の再生、2)河道分担流量の抑制による河道への過度な人為インパクトの回避、3)掘削方法の工夫による河川環境の保全・創出に、繋がる可能性がある。本研究では1)~3)を検討し、流域治水が生物多様性の損失回避・向上に資する程度を評価するとともに、生物多様性保全の視点から流域治水の進め方に関する基本的な考え方を提案する。			
テーマ	多様な扇状地河川を有する富士川流域における治水と環境を両立する流域治水策の検討に向けた研究	山梨大学 大槻 順朗	c	令和7年度 一般研究(継続) として採択する。
概要	多様な特徴を持つ扇状地河川を有する1級河川富士川水系を対象とし、扇状地河川で特徴の異なる支川領域と本川氾濫原領域にアプローチし特徴と機能を解明するとともに、水系全体の複数の空間スケールをターゲットとした生物群集とその環境の有する特性を明らかにし、扇状地河川の特性に基づいた流域治水対策による生態系の保全・再生プロセスの提案を目的とする。			

評価の凡例

- a: 引き続き研究を推進する
- b: 指摘事項に留意のうえ、引き続き研究を推進する
- c: 指摘事項を踏まえ、引き続き研究を推進する
- d: 優れた研究ではなかった(研究の打ち切り)